

「未解決問題解き 業績を残したい」

数学五輪世界1位狩野さん 松本で報告



金メダルを持参し、結果を臥雲市長に報告した狩野さん

オーストラリアで7月に開かれた高校生以下の「国際数学オリンピック（IMO）」で満点を取り、世界1位の快挙を成し遂げた松本深志高校3年の狩野慧志さん（17）＝松本市＝が19日、松本市役所を訪れ、臥雲義尚市長に結果を報告した。数学者を目指して東京大への進学を目指して「今後は未解決問題などを通じて業績を残したい」と意気込みを語った。

IMOのコンテストは7月

15、16日に開き、110の国・地域から630人が参加した。狩野さんのIMO出場は3年連続で、昨年は日本人トップの世界4位で金メダルを獲得。最後の出場機会となった今年は、最難問とされる2日目の第6問を正解し、満点の金メダルで頂点に立った。

狩野さんはIMOの記念Tシャツを着用し、金メダルを首から下げて市役所を訪問。受賞の瞬間を「実感はないけれど、最高到達点を目標にしてきたのでうれしい」と振り返った。臥雲市長は「世界の頂点に立つ快挙。さらなる活躍が楽しみ」とたたえた。今年のIMOの問題を巡っては、生成人工知能（AI）が6問中5問を解いたと報じられている。狩野さんは取材に「AIは膨大な計算から『数の暴力』で問題を解く。それだけでは解決できない分野もあるので、人間も太刀打ちできる余地はある」と説明。「いつAIが人類を超えるのか興味はある。対抗心を持って数学に取り組みたい」と述べた。

狩野さんは今年3月にブラジルで開かれたアジア太平洋数学オリンピックでも日本人トップの金賞を獲得。昨年は信毎選賞を受賞している。



インタビュー
を信毎デジタル
QRコードで
読むことが
できます。